

認知症の方もご家族も いきいきと暮らす群馬県を目指して



平成29年11月10日

群馬県健康福祉部

地域包括ケア推進室

認知症専門官 神山智子

群馬県

人口：1,973,115人（国勢調査H27.10.1現在）

高齢化率（65歳以上）：27.6

（20.7の町～60.5の村）

市町村数：35（中核市2、市10、町15、村8）

群馬県

健康福祉部

健康福祉課

監査指導課

地域包括ケア推進室

医務課

介護高齢課

...



(7名体制)

室長

医療・介護連携推進係(3名)

在宅医療・介護連携推進、
地域リハビリテーション
地域医療介護総合確保基金、
医療費適正化計画

認知症
専門官

(係長兼務)

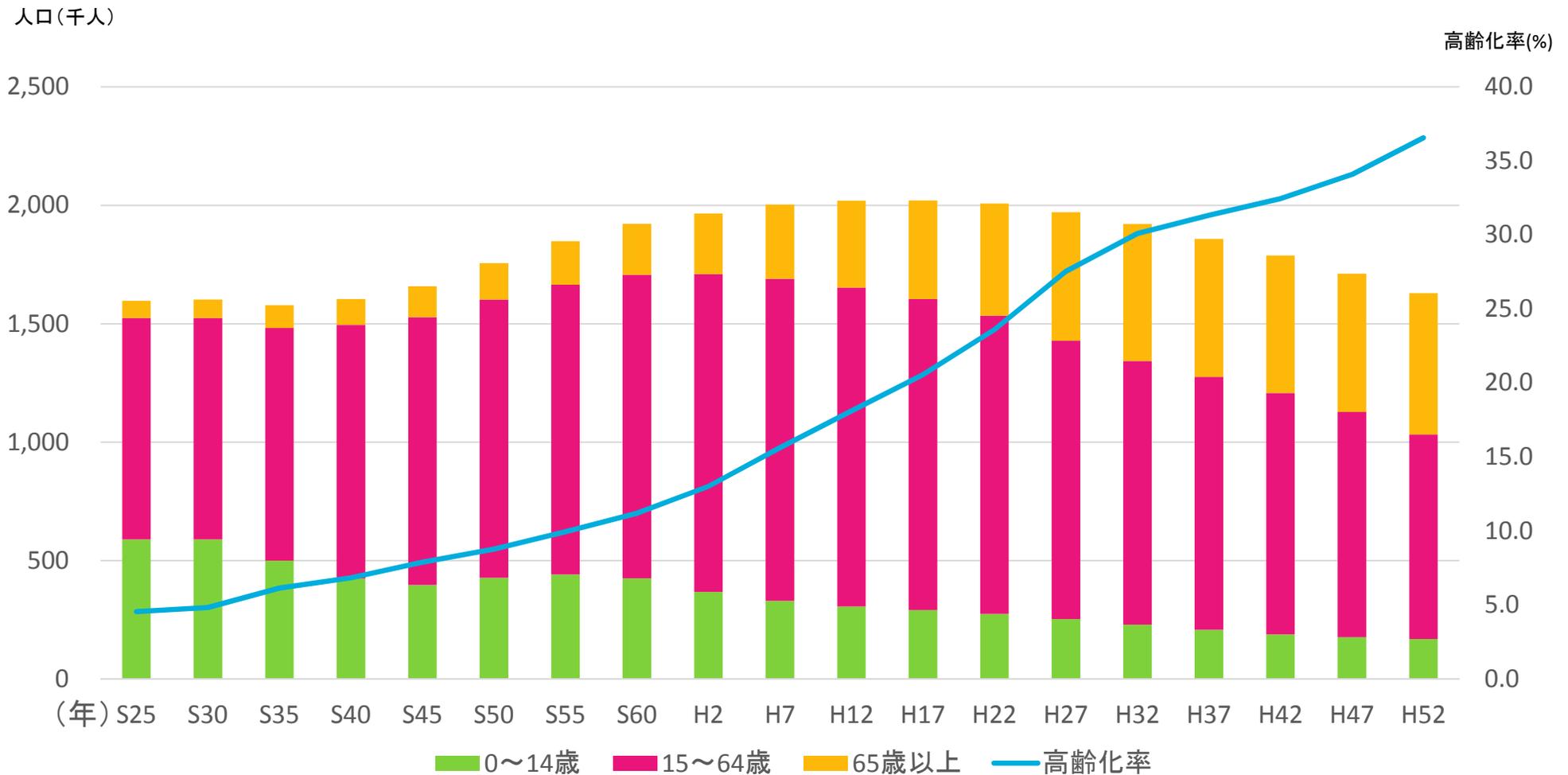
認知症・地域支援係(2名)

認知症施策、高齢者虐待防止
地域包括支援センター支援、
介護予防、地域支援事業交付金、
市民後見人

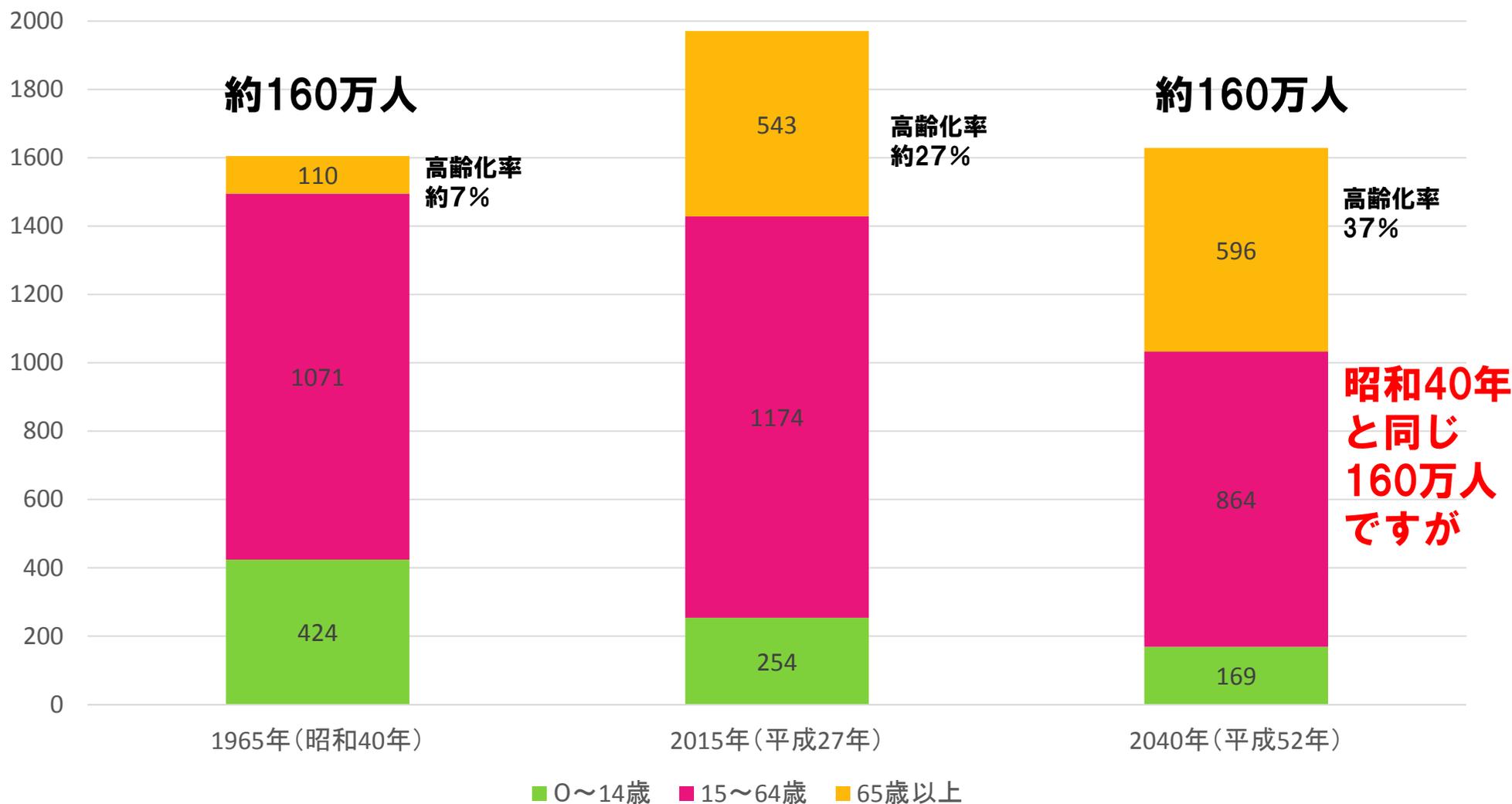
H27年度、医療・介護連携推進のため4名体制で発足

H29年度、介護高齢課から認知症・地域支援係業務が移管

群馬県の年齢3区分別人口推移と推計①

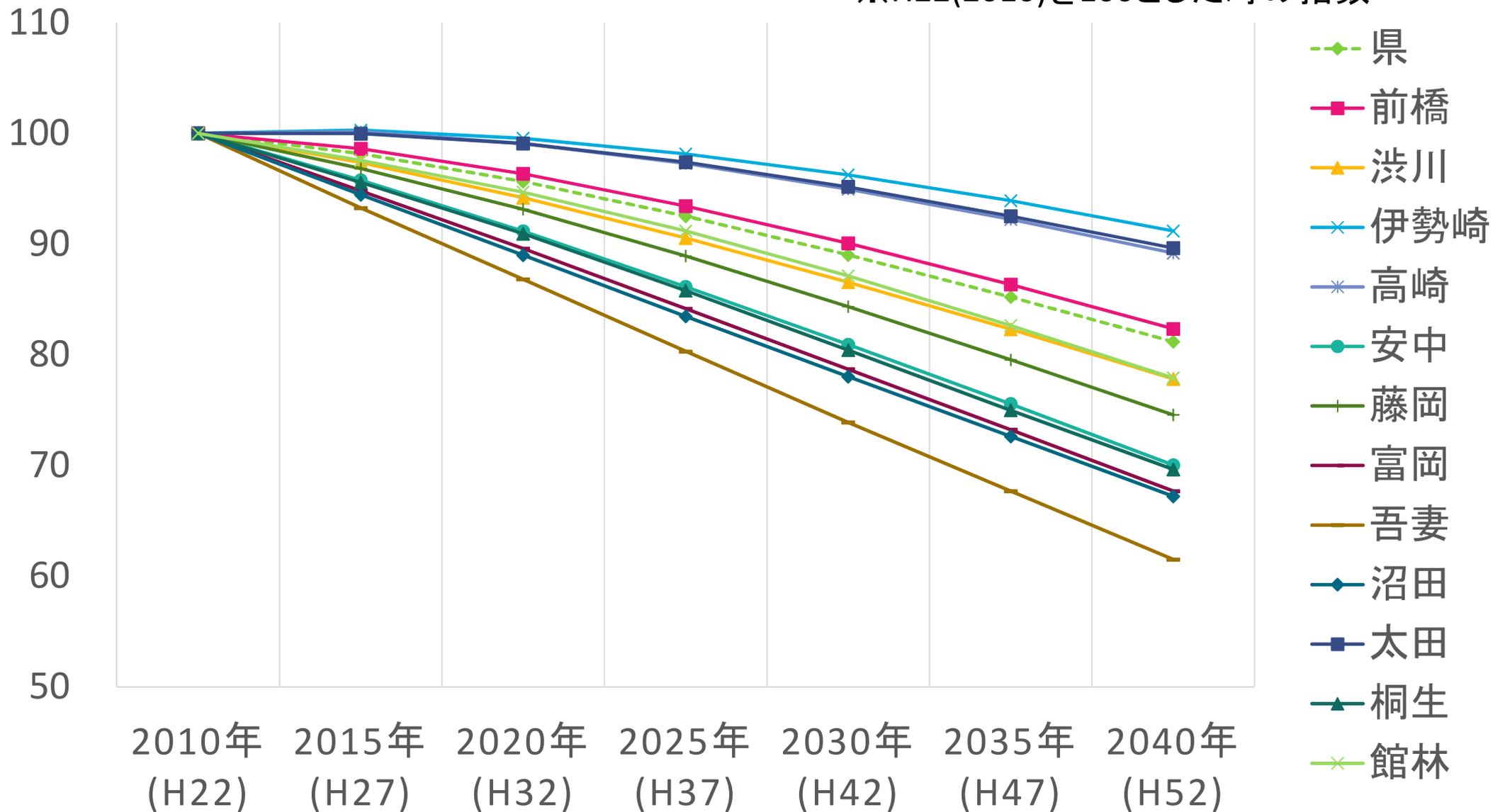


群馬県の年齢3区分別人口推移と推計②



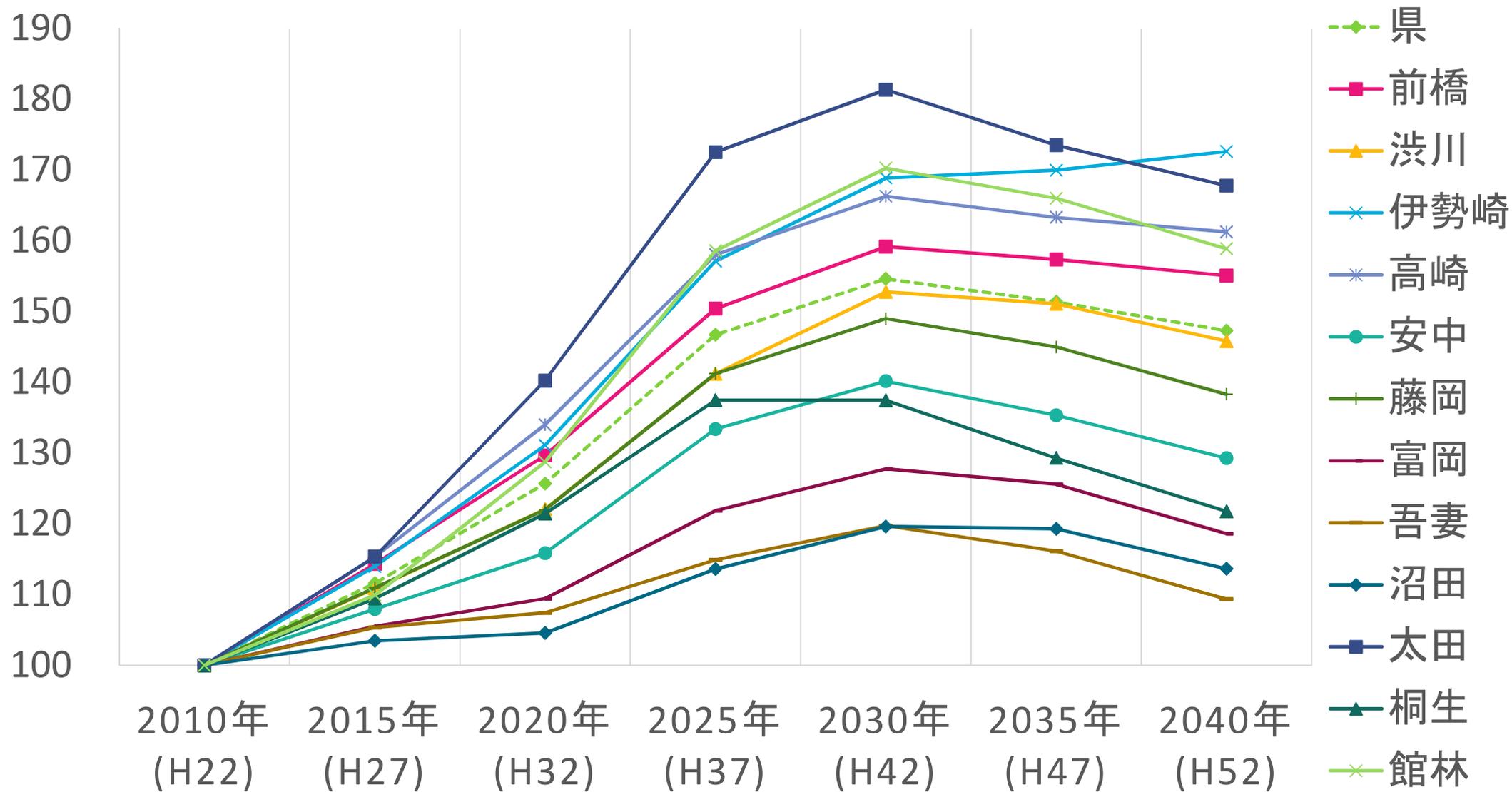
圏域別総人口の将来推計

※H22(2010)を100とした時の指数



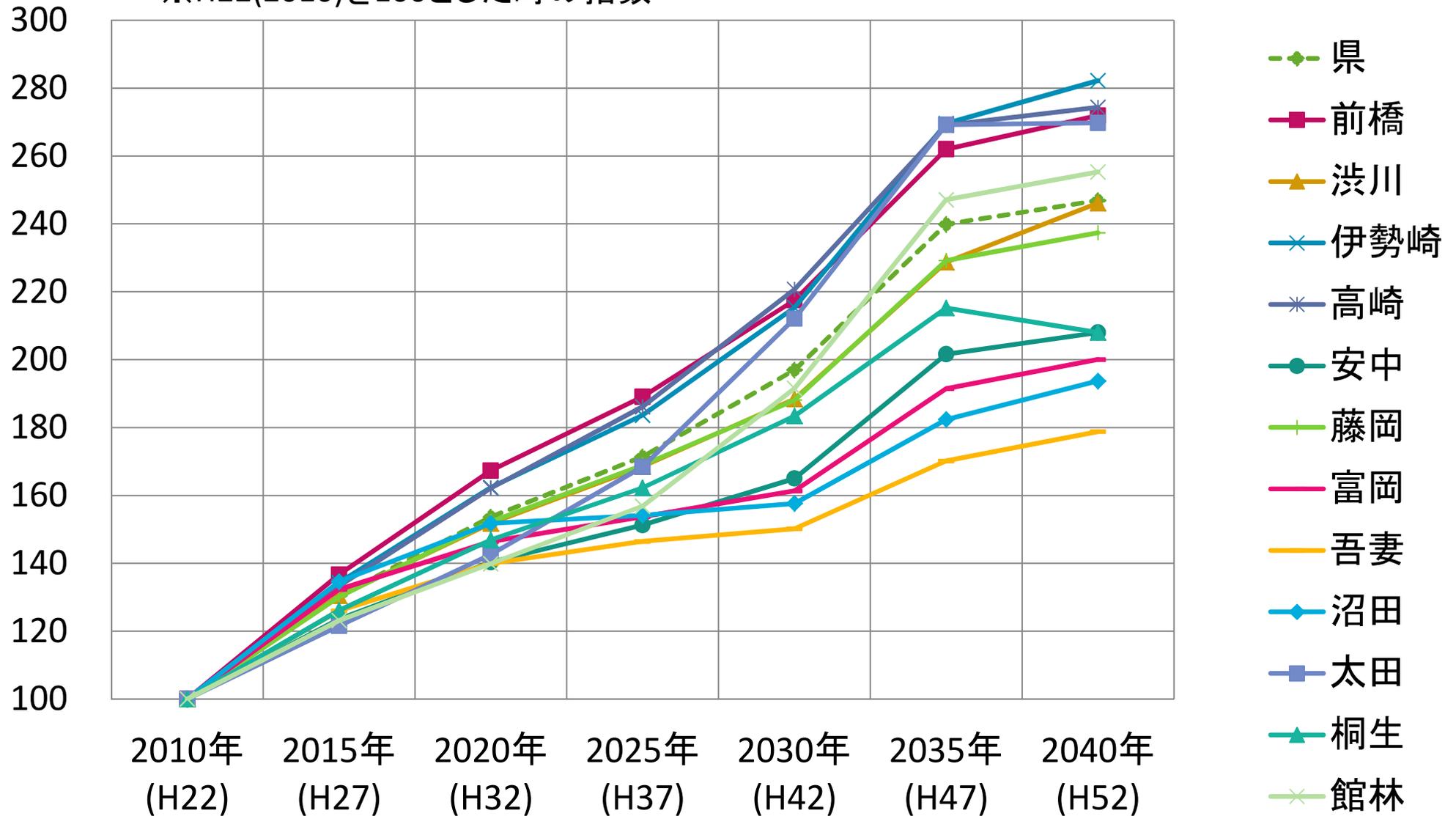
75歳以上人口の将来推計

※H22(2010)を100とした時の指数



圏域別85歳以上人口の将来推計

※H22(2010)を100とした時の指数



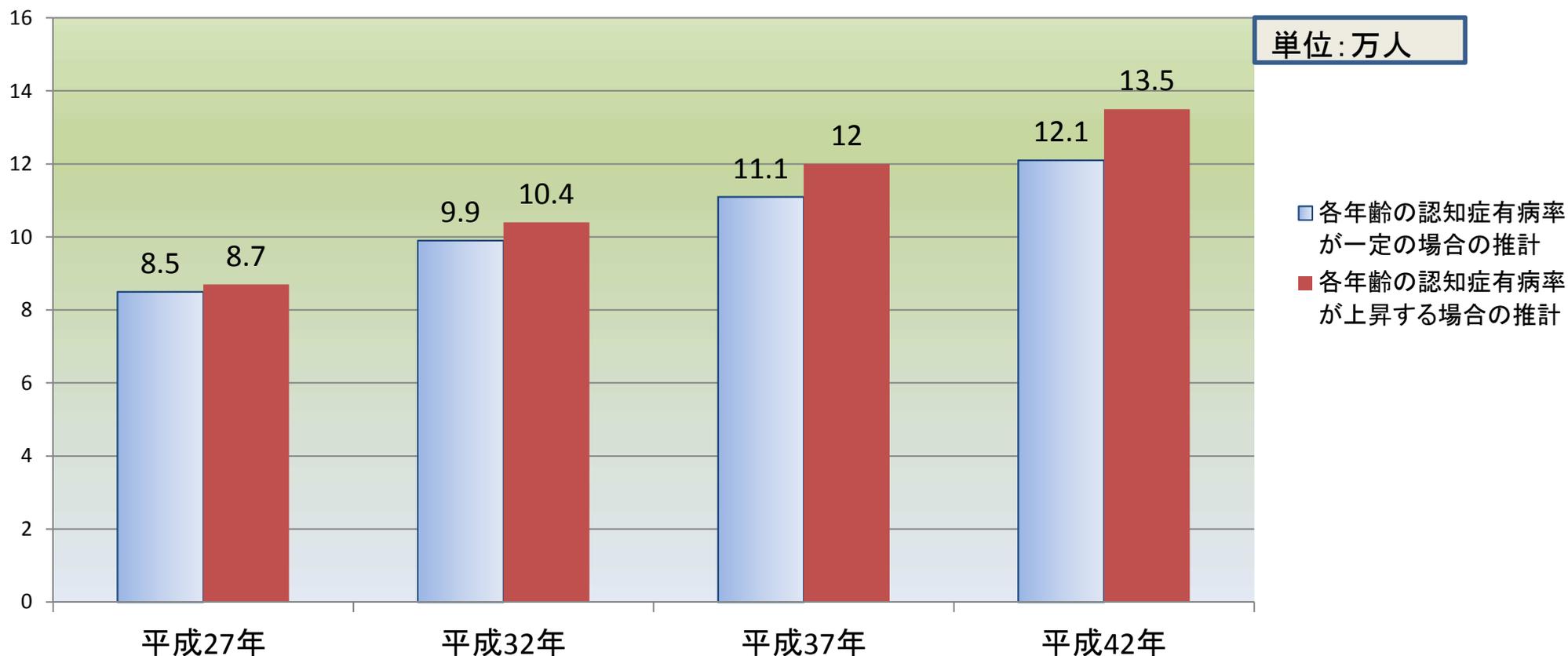
群馬県の年齢別の要介護認定率（平成26年10月）

（単位：千人）

（認定率：％）



群馬県の認知症高齢者の推計値



	(単位: 万人)			
	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年
各年齢の認知症有病率が一定の場合の推計	8.5	9.9	11.1	12.1
(高齢者人口に対する率%)	15.7%	17.2%	19.0%	20.8%
各年齢の認知症有病率が糖尿病有病率の上昇に伴い 上昇する場合の推計	8.7	10.4	12	13.5
(高齢者人口に対する率%)	16.0%	18.0%	20.6%	23.2%

2025年(平成37年)には65歳以上の高齢者5人に一人は認知症の人

相談窓口

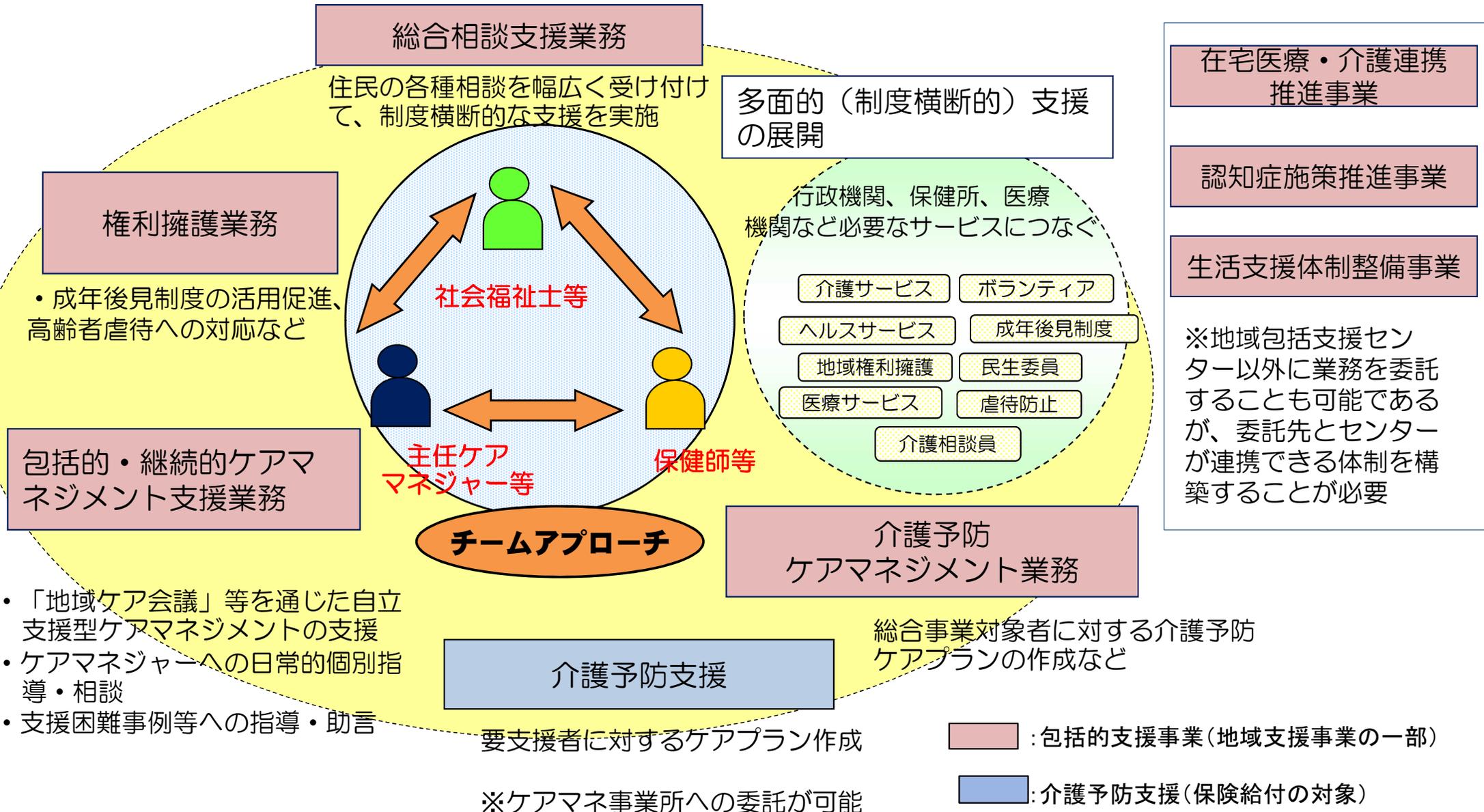
各市町村にあります！

地域包括支援センター

- 高齢者関係の相談全般、介護予防の相談、高齢者の権利の相談など介護・福祉・医療等さまざまな方面の相談を受け付けます。
- 地域包括支援センターには、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等が配置されています。
- 所在地は、市町村役場、保健センター、委託法人など市町村によって異なります。
- 連絡先等は、市町村介護保険担当課に御相談ください。

地域包括支援センターの業務

地域包括支援センターは、第一号介護予防支援事業（居家用支援被保険者に係るものを除く）及び第115条の45第2項各号に掲げる事業（以下「包括的支援事業」という。）その他厚生労働省令で定める事業を実施し、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする施設とする。（介護保険法第115条の46第1項）



群馬県内 地域包括支援センター設置状況の推移

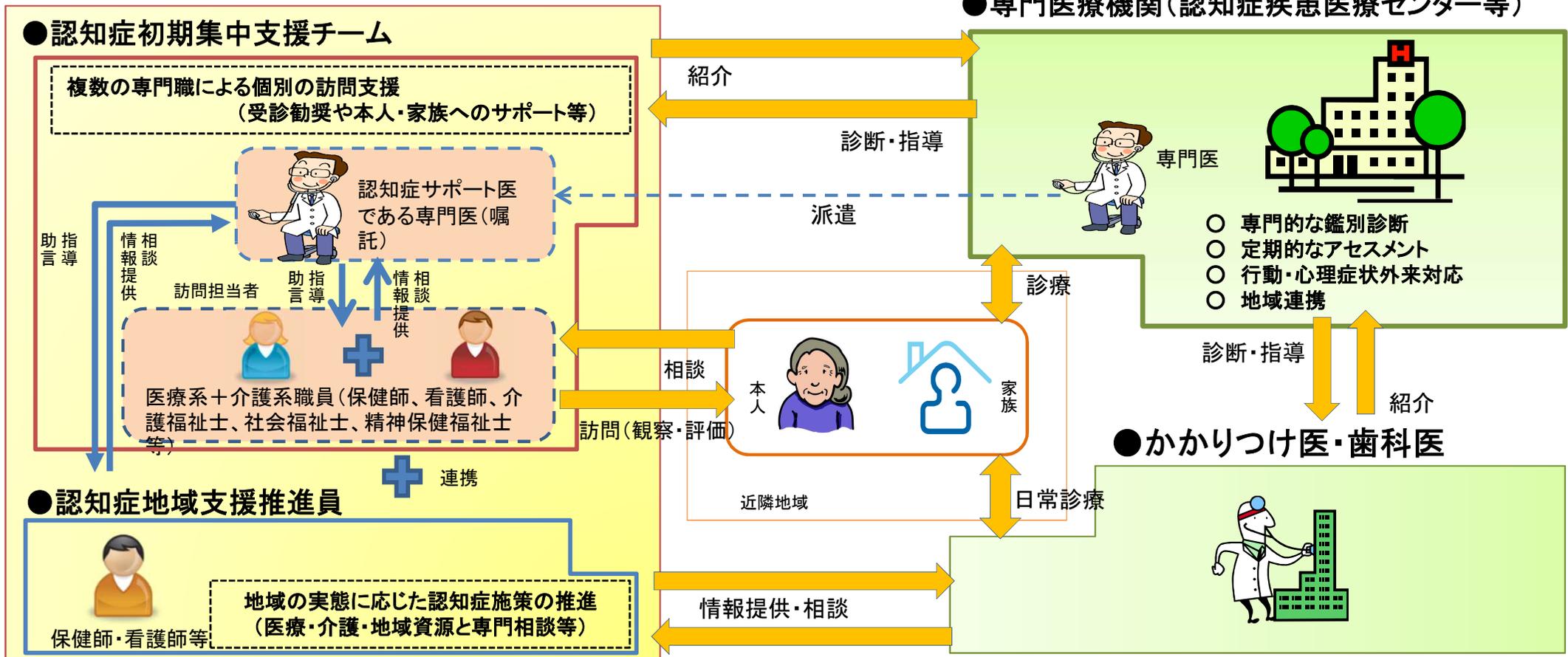
		H26年4月1日時点		H27年4月1日時点		H28年4月1日時点		H29年4月1日時点	
設置保険者数		35	100%	35	100%	35	100%	35	100%
センター設置数		52		90		98		102	
	直営	30	57.7%	28	31.1%	28	28.6%	28	27.5%
	委託	22	42.3%	62	68.9%	70	71.4%	74	72.5%
委託先	社会福祉法人	12	23.1%	31	34.5%	35	35.7%	36	35.3%
	社協	4	7.7%	7	7.8%	7	7.1%	7	6.9%
	医療法人	3	5.8%	15	16.7%	18	18.4%	21	20.6%
	社団法人	1	1.9%	1	1.1%	1	1.0%	1	1.0%
	財団法人	1	1.9%	3	3.3%	4	4.1%	4	3.9%
	株式会社	0	0%	2	2.2%	2	2.0%	2	2.0%
	NPO法人	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	その他	1	1.9%	3	3.3%	3	3.1%	3	2.8%

認知症初期集中支援チームと認知症地域支援推進員について

認知症専門医による指導の下(司令塔機能)に早期診断、早期対応に向けて以下の体制を地域包括支援センター等に整備

- **認知症初期集中支援チーム** — 複数の専門職が認知症が疑われる人、認知症の人とその家族を訪問(アウトリーチ)し、認知症の専門医による鑑別診断等を(個別の訪問支援)ふまえて、観察・評価を行い、本人や家族支援などの初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行う。
- **認知症地域支援推進員** — 一人認知症の人ができる限り住み慣れた良い環境で暮らし続けることができるよう、地域の実情に応じて医療機関、介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐ連携支援や認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行う。

地域包括支援センター・認知症疾患医療センター等に設置



《認知症初期集中支援チームの主な業務の流れ》

- ① 訪問支援対象者の把握、② 情報収集(本人の生活情報や家族の状況など)、③ 観察・評価(認知機能、生活機能、行動・心理症状、家族の介護負担度、身体の様子をチェック)、④ 初回訪問時の支援(認知症への理解、専門的医療機関等の利用の説明、介護保険サービス利用の説明、本人・家族への心理的サポート)、⑤ 専門医を含めたチーム員会議の開催(観察・評価内容の確認、支援の方針・内容・頻度等の検討)、⑥ 初期集中支援の実施(専門的医療機関等への受診勧奨、本人への助言、身体を整えるケア、生活環境の改善など)、⑦ 引き継ぎ後のモニタリング

企画書

「認知症カフェ」の取組

テーマ概要

市町村、地域包括支援センター、施設、認知症サポーター、高校生ボランティア、商工関係者、農家等の多数の関わりにより、誰でも気軽に集まれる場所（カフェ）をつくり、介護者を支援する。

県の役割

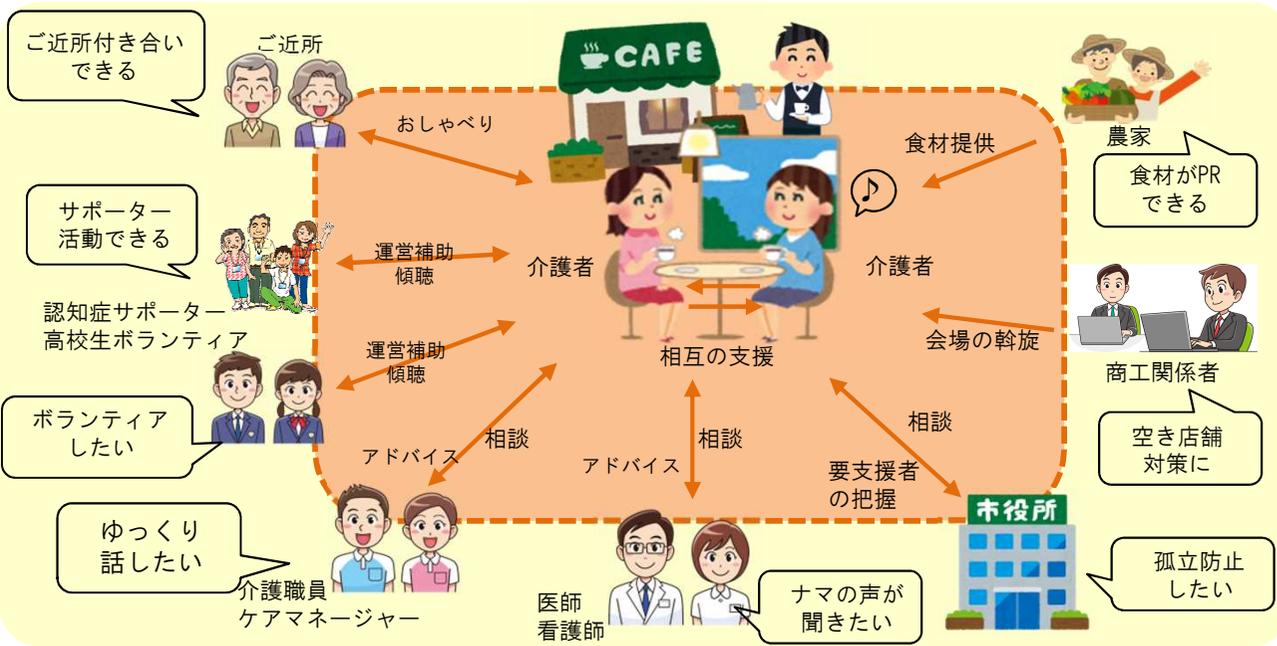
- ★運営立ち上げ支援
- ★運営モデルの提示

〔ヤングケアラー、ダブルケアラーを含む〕

介護者カフェの運営モデル

認知症高齢者・障害者を介護する家族を中心に誰もが気軽に立ち寄れる場所（カフェ）を開催する。

- ◆実施主体：社会福祉施設、NPO、医療機関、家族会、社会福祉協議会など
(社会福祉法人の社会貢献事業としての実施も含む)
 - ◆運営メンバー：社会福祉施設職員、医療従事者、地域住民、ボランティア、認知症サポーターなど
 - ◆開催場所：社会福祉施設、街なかの空き店舗、空き家など
 - ◆カフェの内容：お茶・コーヒー、県産食材の軽食を提供する
 - ☆介護家族同士の交流促進
 - ☆食材の地産地消の推進
- 専門職に気軽に相談できる
☆適切な介護・相談等サービスへのアクセス
ボランティアスタッフを活用する
☆認知症サポーター等の活躍の場の創出



現状の課題

介護する家族

- 介護は肉体的・精神的な負担が大きい
- こころのケアをしてもらいたい
- 同じ悩みを持つ人が集える場がほしい

ボランティア

- 認知症サポーターの活躍の場がほしい
- ボランティアする場がほしい

行政など

- 介護家族が社会から孤立してしまう
- 高齢者・障害者の虐待が減らない

期待される効果

- 介護者同士の交流で悩みを共有！
(相互支援：ピアサポート)
- ストレス発散、息抜きできる！
- 専門職からアドバイスがもらえる！

- 困っている人の役に立てる！
(活躍の場の創出)
- もっと要介護高齢者等の役に立ちたい！
(活動意欲の向上)

- 地域全体で支える気運醸成ができる！
(地域包括ケアの推進)
- 虐待を未然防止できる！
- 緊急に支援が必要な人は専門相談機関に繋がられる！

今後の検討事項

カフェの運営主体の発掘、支援方法

介護者のストレス解消への効果的な支援方法

ボランティア、認知症サポーター等の意欲を引き出す運営手法

孤立しがちな介護者を地域社会に繋げる方策

認知症カフェ開設状況

H28年度末現在

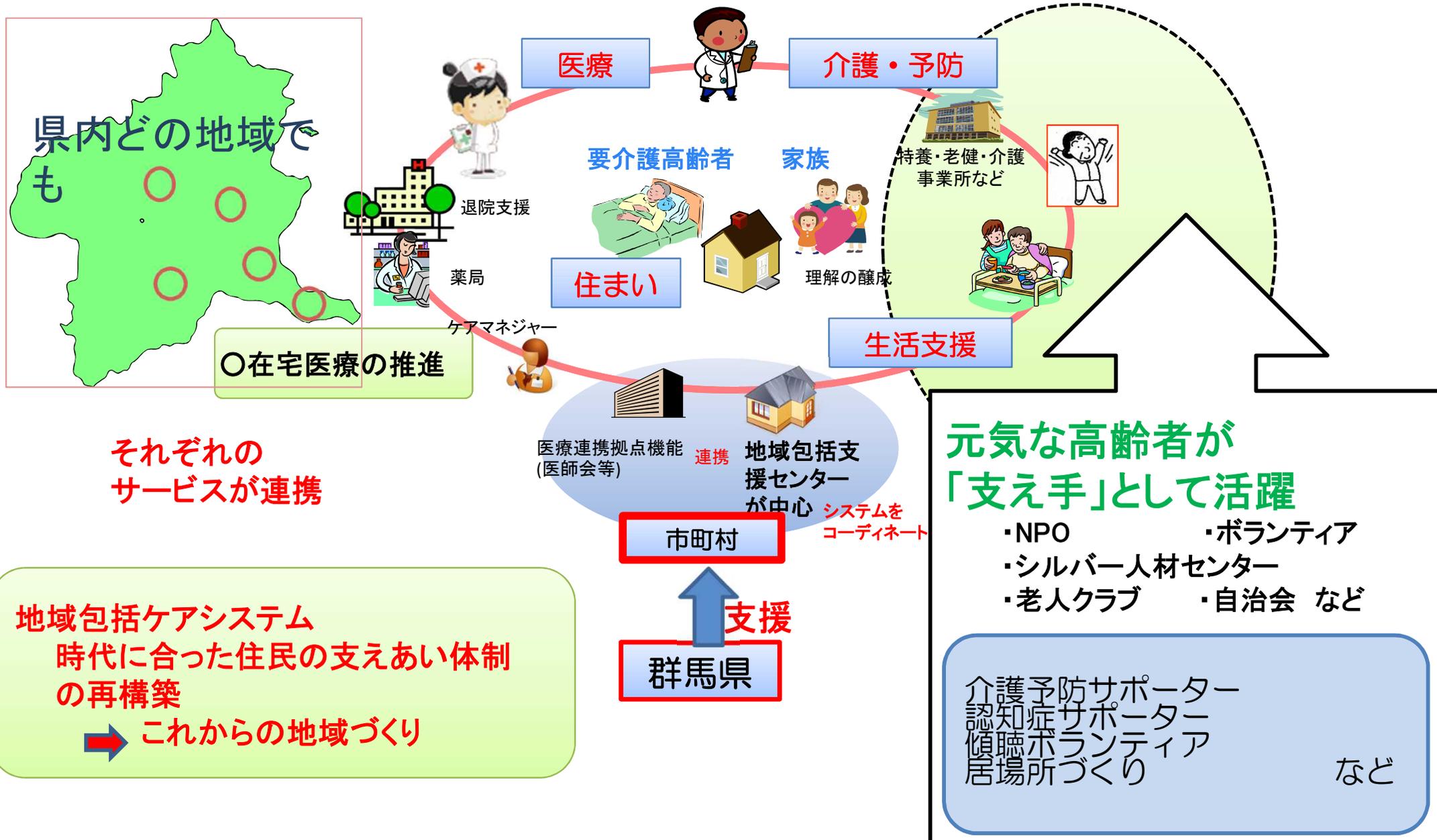
開設市町村名	認知症カフェ数
前橋市	1
高崎市	31
桐生市	11
伊勢崎市	4
太田市	3
沼田市	3
館林市	1
富岡市	1
安中市	1
みどり市	1
吉岡町	1
みなかみ町	1
玉村町	1
大泉町	1
合計	61

- <設置主体>
- ア 市町村
 - イ 地域包括支援センター
 - ウ 認知症疾患医療センター
 - エ 介護サービス施設・事業者(グループホーム、有料老人ホーム等)
 - オ 社会福祉法人
 - カ NPO法
 - キ その他(社協等)

H29.9.25
第1回
若年性認知症カフェ
実施



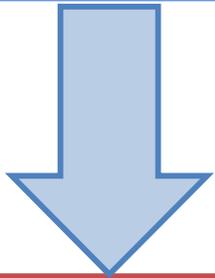
群馬県が目指す地域包括ケアシステム



群馬県高齢者保健福祉計画

基本目標

高齢者の誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくり



【基本目標の実現に向けた5つの基本政策】

- 地域包括ケアシステムの構築
- 介護予防の推進
- 認知症施策の推進
- 多様な福祉・介護サービス基盤の整備
- 介護人材確保対策と資質の向上

群馬県の認知症施策(H29年度)

地域包括ケア推進室

◆新規事業等

認知症の人とその家族が地域で安心して暮らせる体制整備の推進

地域づくり

地域支援体制の構築

- ◇認知症施策推進会議の開催
- ◇市町村担当者会議の開催

理解促進普及啓発

- ◆認知症への理解を深める県民運動推進(企業向けトップセミナー開催・応援大使事業)
- ◇認知症サポーター養成支援・キャラバンメイト養成研修会の開催
- ◇認知症普及啓発講演会(アルツハイマーデー記念講演会)の開催
- ◇9月を認知症理解促進月間と位置づけ

医療・相談

早期診断・適切な医療の提供及び相談体制の充実

- ◇認知症疾患医療センターの設置(13医療機関)
- ◇認知症コールセンターの充実(研修指導センターに設置)

- ◇かかりつけ医・認知症サポート医養成、認知症サポート医フォローアップ研修会の開催
- ◇認知症初期集中支援チーム員研修派遣・認知症地域支援推進員養成支援
- ◇歯科医師・薬剤師・看護職員・病院勤務の医療従事者等の認知症対応力向上研修

認知症ケアの質の向上

基盤整備

- ◇地域密着型サービスの整備の促進
- ◇認知症対応型共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介護、認知症対応型通所介護等
- ◆認知症カフェ事業者意見交換会

介護人材育成

- ◇認知症介護指導者養成(認知症介護研究・研修東京センターに派遣・一部補助)
- ◇認知症介護基礎研修、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修等

若年性認知症

特有課題への対応

- ◇若年性認知症普及啓発研修の開催
- ◇若年認知症の面接相談・電話相談窓口の充実
- ◆若年性認知症支援コーディネーター設置

家族支援

本人・家族支援

- ◇認知症の人と家族の会群馬県支部に補助
- ◇若年認知症ぐんま家族会への支援

権利擁護

高齢者の権利擁護の促進

- ◇高齢者虐待に関する相談窓口の設置、高齢者虐待専門職チームの派遣
- ◇高齢者虐待防止対策研修会、虐待対応現任者研修会、権利擁護推進員養成研修会等の開催
- ◇市民後見人養成支援

群馬県地域包括ケア推進庁内連絡会議

<目的> 県が市町村と連携し地域包括ケアシステムの構築を推進するため、県庁内関係各課の視点から、その取組の効率的かつ効果的な推進方策の検討及び調整等を行う「地域包括ケア推進に係る庁内連絡会議」を設置する。

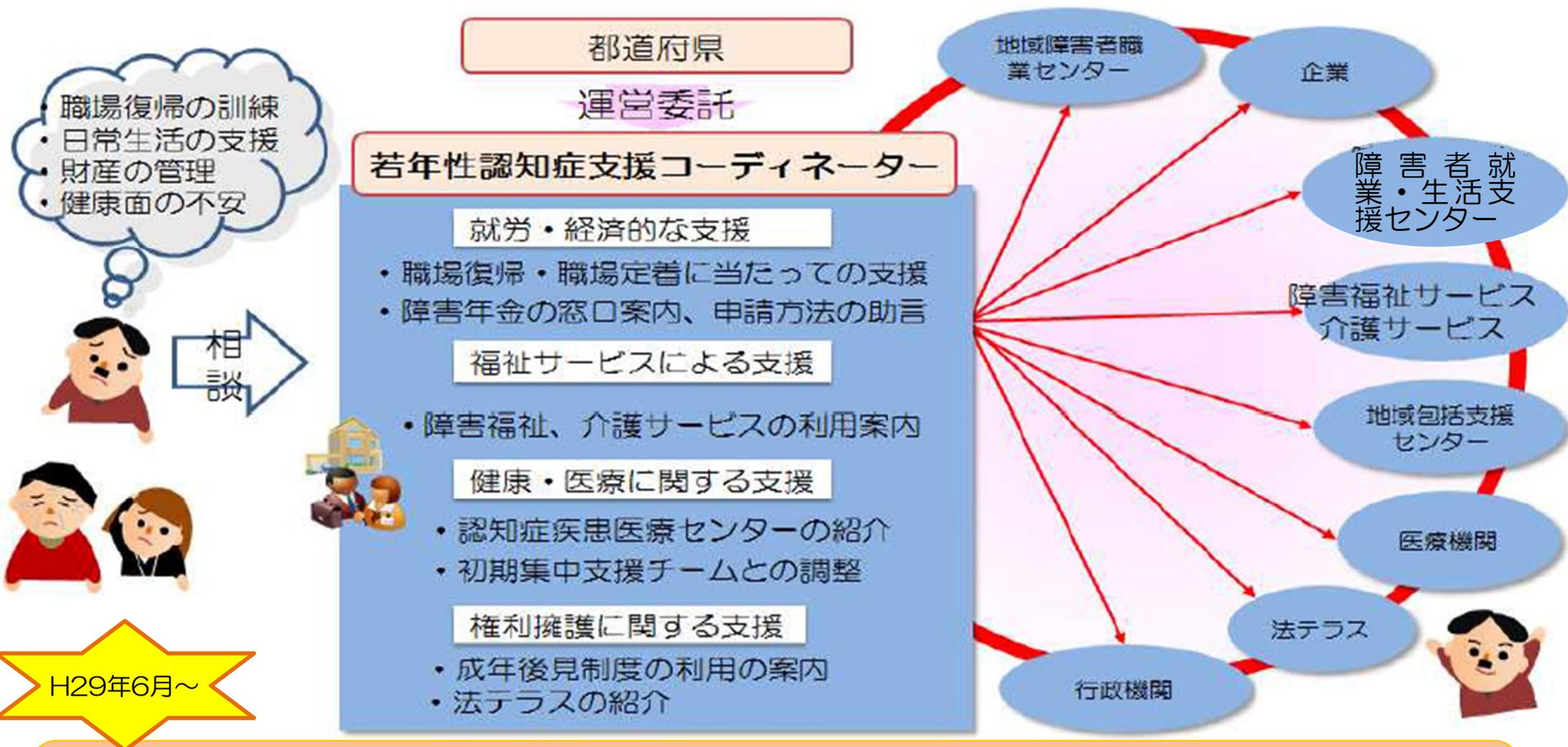
<構成員> 17名

部名	課名
生活文化スポーツ部	県民生活課
こども未来部	こども政策課
県土整備部	住宅政策課
健康福祉部	健康福祉課
	医務課
	介護高齢課
	保健予防課
	障害政策課
	薬務課
	地域包括ケア推進室

<開催日程> 年間4回：平成28年5月～実施

若年性認知症支援コーディネーター

H29新規



全県対象に1か所設置

群馬県認知症疾患医療センター(医)中沢会上毛病院

相談電話：027-266-1748

H23~

9月は、
認知症理解
促進月間です。

9月21日は
世界アルツハイマーデー

群馬県では、9月を
「認知症理解促進月間」
としています

認知症は単なる
物忘れとは異なります。
おかしいと思ったら、
早めに受診しましょう。

オレンジリングが
サポーターの印！



オレンジリング

認知症サポーターのぐんまちゃん

認知症を正しく理解し、
みんなで認知症の人と家族の方を支えよう！

H29新規

認知症アンバサダー

群馬のご当地
アイドル
あかぎ団



<認知症アンバサダーとは>

アンバサダー（英：ambassador）とは、日本語で「大使」のことです。
認知症に関するイメージ向上と県民の理解を促進するため、県が委嘱するものです。

RUN伴+ぐんま

H28~

認知症になっても
安心して暮らせる
ぐんまへ



県内の4地域から たすきリレー

県庁でゴール！！

平成29年10月19日(木)・20日(金)

H27年度:あかぎ団ライブ&映画

認知症★理解促進★ ～映画で学ぼう！認知症～



いまや高齢者の6人に1人が認知症！
認知症は、誰かがかかる可能性がある病気です。
認知症高齢者等にやさしい地域づくりを進めるため、
映画を通して、認知症について学びましょう！

- 認知症の概要と本県の取組 群馬県健康福祉部介護高齢課 認知症対策主監 尾池 久美子
- 認知症の人と家族への援助の取組 公益社団法人認知症の人と家族の会 群馬県支部代表 田部井 康夫
- 映画「毎日がアルツハイマー」上映
- 映画監督講演 映画「毎日がアルツハイマー」 監督 関口 祐加

定員:360名
(先着)



映画上映 >>> 監督講演

映画上映終了後、
関口祐加監督からご講演いただきます！

映画監督
関口 祐加 氏 (講師: 堂本ひまり)

■作品解説■
アルツハイマー病であると診断された母と過ごす毎日を2年半に渡り記録した映像をもとに、母の<暮らす家>を通して描いた関口祐加監督の劇場版・長編映画「毎日がアルツハイマー」。アルツハイマーの世界を通して、家族のあり方、真には、人間の尊厳とは何かを問う作品です。(公開:2012年)

■参加申込の方法

①、②、③を明記のうえ、群馬県健康福祉部介護高齢課まで申し込んでください。
※定員に達して、ご参加いただけない場合は連絡します。

■申込に必要な情報

- ①認知症理解促進イベント参加希望
- ②申込代表者の氏名・年齢・住所・電話番号・所属(事業所等に所属している場合)
- ③申込代表者以外参加申込者の氏名・年齢・住所(市町村名のみ)・所属(事業所等に所属している場合)

※車椅子利用等、配慮が必要な場合は、その旨も記載してください。

■申込の宛先

- 電子メール kourei-genki@pref.gunma.lg.jp
- FAX 027-223-6725
- はがき 〒371-8570 前橋市大手町1-1-1 群馬県健康福祉部介護高齢課

※タイトルに「認知症理解促進イベント参加希望」と明記してください。
※電話での申込は受け付けていません。

申込期限
9.23(金)まで
定員に達しない場合は
当日参加できます

主催 群馬県
後援 公益社団法人認知症の人と家族の会群馬県支部
公益財団法人群馬県長寿社会づくり財団

【問い合わせ】
群馬県健康福祉部介護高齢課
☎027-226-2576(直通)

認知症になっても
暮らせる
地域づくりに
向けて♪

認知症♥理解促進イベント ～あかぎ団と学ぼう認知症～



けやき
ウォーク
前編も

9.26(土)
13:00
開演

第1部 あかぎ団ライブ

実施会場 けやきウォーク前編 けやきコート
開 演 12:50~
1部開演 13:00~ オープニングトーク
13:10~13:40 あかぎ団ライブ
1部開演 13:45

ぐんま観光特使
あかぎ団
-AKAGIDAN-

第2部 映画上映



実施会場 ユナイテッドシネマ前橋7番スクリーン
2部開演 14:30~ 映画上映
映 了 17:00

ベコロスの母に会いに行く
2019年11月28日(木)
配役 邦風 監督 柳川 真
出演 柳川 真、原田真知子、加藤ひばり
原稿 長瀬に生まれ育った彼は、1970年に長崎を飛び出して
東京に在米、そして1980年に帰国へ戻った昭和世代の
オッサンである。
東京での20年ばかりで結婚生活があり初孫も1人
出たが、結婚がうまくいかなかった。それから更に
20年が過ぎ、そこに暮らすことになる。
そして今日も彼は、加藤ひばりに会いに行く。

要申込み
先着
300名

映画鑑賞をご希望の方は郵便番号・住所・氏名・年齢・人数・電話番号を明記の上、
メール・FAX・ハガキにて下記までお申し込み下さい！(申込み受付後にチケットを発送いたします。)
宛先:〒371-8570 前橋市大手町1丁目1番1号 TEL.027-226-2576 FAX.027-223-6725
「群馬県健康福祉部介護高齢課」宛 Eメール kourei-genki@pref.gunma.lg.jp
※応募締切09月11日(金) ●当日は車椅子用の治療もご利用しています。

主催 群馬県 開催日 平成27年9月26日(土) 会場 けやきウォーク前編(前橋市文化町2-2-1)

H28年度:映画で学ぼう！認知症

認知症サポーター ステップアップ講座 教材

企画・制作:群馬県立県民健康科学大学
地域連携センター・看護学部

教材1～教材7



群馬県健康福祉部地域包括ケア推進室



企画・制作:群馬県立県民健康科学大学
地域連携センター・看護学部

「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」(新オレンジプラン)に基づき教材開発事業
平成29年6月 USBメモリにて県内各市町村に配布(予定)

俳優らによる魅力的な動画教材

認知症の人への接し方、道に迷っている高齢者への対応方法など、わかりやすく親しみやすい動画教材を随所に使用。

「良い例」と「悪い例」のストーリーをそれぞれ見ることにより、対応方法の工夫で反応が劇的に変化する様子を学習。

各動画は、すべて企画・制作者らの実体験に基づいており、また舞台俳優らの出演・演出により、とてもリアルで感情も伝わりやすい。

認知症カフェや、グループホームでのボランティア活動を希望する認知症サポーターのステップアップ研修はもちろん、徘徊対応や認知症の人を支えるための地域学習会の教材としても最適な視聴覚教材。



認知症が強く疑われる高齢女性、「あとは一人で帰れます」と言うが、このまま別れてしまって大丈夫?!

実習を含め、3日間で学ぶ「交流体験総合コース」

認知症カフェやグループホームなどでボランティアとして活動したいという意欲がある方に向け、教材1～7のすべてを使って学習し、2日目には体験実習を組み入れたフルメニューの学習コース。

*コースの詳細については、教材内の概要ファイルをご覧ください。

＜気になる中身をちょっとご紹介＞

教材1では、ボランティアとして認知症の人と交流することの魅力ややりがいを紹介。認知症の人たちが与えてくれる、たくさんの笑顔や優しさに感激!



帰宅願望を示す人に対して、接し方を間違えると、興奮の火に油を注ぐことに...

教材2では、認知症についてくわしく学び、認知症の人への接し方のポイントを学習。接し方の違いで、反応が劇的に変化する様子は必見!

第2回公開講座

認知症になっても安心して暮らせる 群馬をつくる

—魅力的な視聴覚教材を使った認知症研修のすすめ方—

認知症の人が安心して自分らしく生活できる環境づくりのために、地域や職場で研修会を開きませんか？

この講座では、厚生労働省の認知症施策である「新オレンジプラン」の一環として本学で開発した「認知症サポーター・ステップアップ教材」を紹介し、地域や医療・介護の現場での活用法を提示します。

ご希望の方には、「認知症サポーター・ステップアップ教材」の全7講座が収録されたデータ(Power Point)を無料で提供します。



ぐんま県民の日

平成29年 **10月28日** (土)

時間 13:30~16:00(受付13:00~)
会場 群馬県立県民健康科学大学 大講義室
講師 看護学部
教授 狩野 太郎【専門：生涯発達看護学(老年期)】



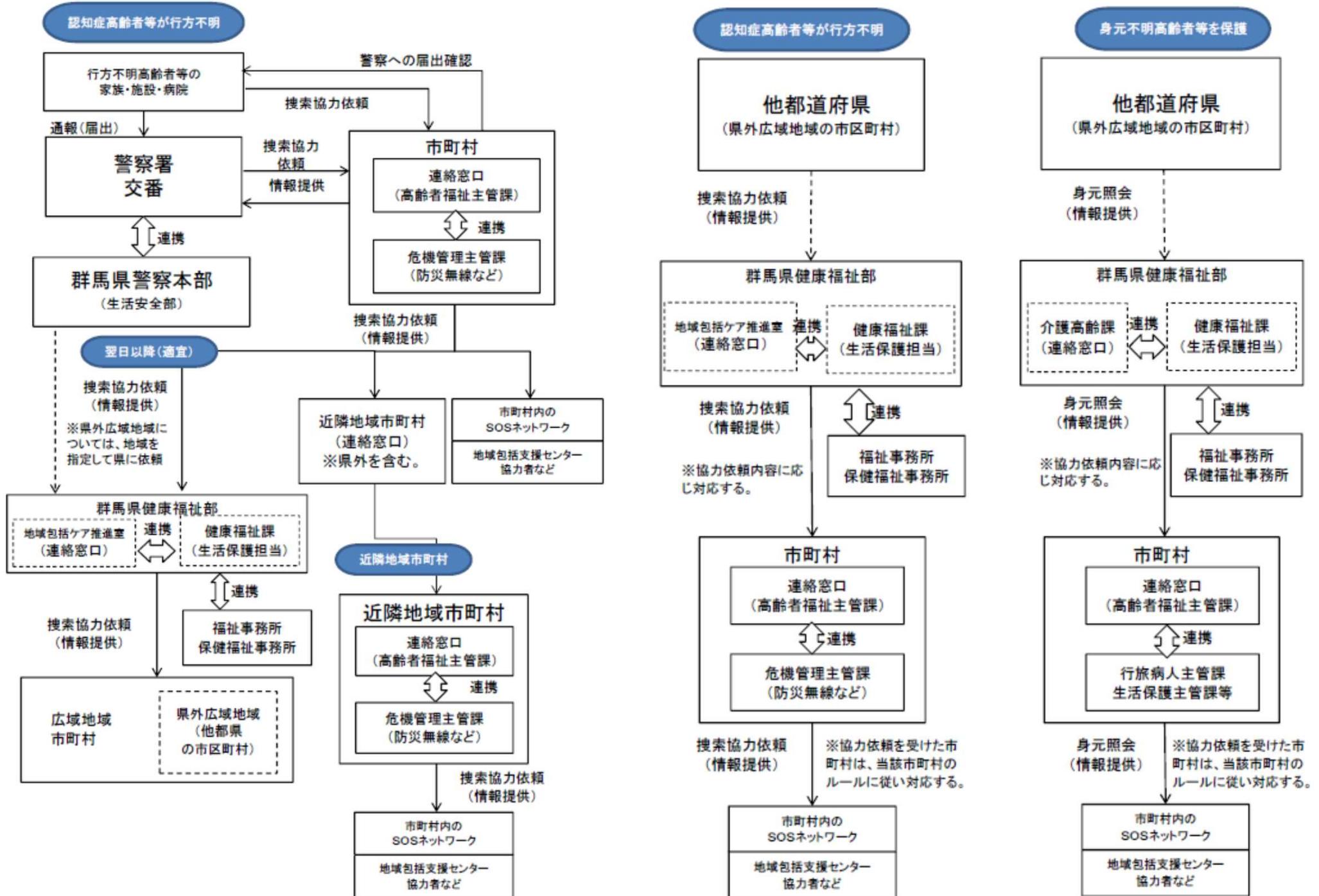
費用 無料
対象 県内で認知症への理解を深める講座や研修の開催を予定している市町村や保健・医療・福祉施設、または教育機関等の担当者
定員 100人(先着順)

申込方法 はがき、ファックス、電話または本学ホームページで、住所・氏名・電話番号・職種・教材データ希望有無をお知らせください。
※申込者の個人情報は、この講座のみに使用します。
申込期限 平成29年10月24日(火)

群馬県認知症高齢者等SOSネットワークフロー

＜行方不明の認知症高齢者等発生時＞

＜他県等からの依頼への対応＞



様々な団体等との協働による 認知症啓発活動(H29年度)

日程	内容	協力団体
H29.6	群馬県警察と市町村の合同研修	群馬県警察本部
	飲食業者が心がける認知症対策	飲食業生活衛生同業組合
H29.8	地域包括ケアと退職者互助会への期待 (認知症サポーター・市民後見人等)	群馬県庁退職者互助会
H29.9	認知症について正しく知ろう	群馬県女性相談所
	認知症サポーター養成	群馬県消防学校
H29.10	認知症サポーター養成	ご当地アイドルあかぎ団
	介護離職を考える前に知っておきたいこと 認知症サポーター養成	群馬県男女共同参画センター
H29.12 (予定)	認知症とともによりよく生きる社会に向けて、 今、企業ができること	群馬県産業経済部・一般企業等

色々なチャンネルで、認知症を！介護保険を！助けの手があることを！伝える
一人で悩まないで！！

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の概要

～ 認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～ (平成29年7月5日一部修正)

- ・ 新プランの対象期間は団塊の世代が75歳以上となる2025(平成37)年だが、策定時の数値目標は、介護保険事業計画に合わせて2017(平成29)年度末等で設定されていたことから、第7期計画の策定に合わせ、平成32年度末までの数値目標に更新

新オレンジプランの基本的考え方

- ・ 高齢者の約4人に1人が認知症の人又はその予備群。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加
2012(平成24)年 462万人(約7人に1人) ⇒ 2025(平成37)年 約700万人(約5人に1人)
- ・ 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。



認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

- ・ 厚生労働省が関係府省庁(内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省)と共同して策定
- ・ 策定に当たり認知症の人やその家族など様々な関係者から幅広く意見を聴取

七つの柱

- ① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③ 若年性認知症施策の強化
- ④ 認知症の人の介護者への支援
- ⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)数値目標の更新(H29.7.5発表)に係る検討

認知症の人とその家族が地域で安心して暮らせる体制整備の推進

	H28 国実績	H32 国新目標	H28国実績 の人口割 (÷60)	H28 県実績	H32国新目標の 人口割(÷60)	対応する県の施策
認知症サポーターの人数	880万人⇒	1,200万人	146,667人	110,635人	200,000人	地域づくり ・キャラバンメイト・サポーター養成 ・認知症カフェ支援
認知症カフェ等の設置		全市町村		14市町村	35市町村	
認知症疾患医療センター	375か所⇒	500か所	6.25か所	13か所	8.3か所	医療・相談 ・認知症疾患医療センター運営 ・サポート医・かかりつけ医研修 ・歯科医師・薬剤師・看護職員研修 ・病院勤務の医療従事者研修
かかりつけ医認知症対応力向上研修受講者(累計)	5.3万人⇒	7.5万人	883人	548人	1,250人	
認知症サポート医	0.6万人⇒	1万人	100人	90人	166.7人	
歯科医師認知症対応力向上研修受講者		2.2万人		54人	366.7人	
薬剤師認知症対応力向上研修受講者		4万人		77人	666.7人	
看護職員認知症対応力向上研修受講者		2.2万人		202人	366.7人	
一般病院勤務医療従事者認知症対応力向上研修受講者	9.3万人⇒	22万人	1,550人	271人	3,666.7人	
認知症介護指導者養成研修受講者	2.2千人⇒	2.8千人	37人	37人	46.7人	認知症ケアの質の向上 ・認知症介護指導者・介護実践リーダー・介護実践者研修
認知症介護実践リーダー研修受講者	3.8万人⇒	5万人	633人	491人	833.3人	
認知症介護実践者研修受講者	24.4万人⇒	30万人	4,067人	5,278人	5,000人	

■ 本人と家族への支援 ■ 若年性認知症 ■ 権利擁護といった課題や市町村事業支援にも、力を入れて取り組んでいる。

実は、群馬県はまだまだ伸び代たっぷり！！
認知症の方もご家族も暮らしやすい群馬県を目指します！！

地域包括ケアシステムの構築は

「地域づくり」です

誰もが住み慣れた地域(場所)で
安心して暮らせる地域を作るため、
皆さんの知恵と心を結集して取り組みましょう。



ご清聴ありがとうございました。

